

資 料 編

目次

資料編

■ 1. 用語解説	資 1-1
1. 用語集	資 1- 1
■ 2. 金沢市を代表する生物図鑑	資 2-1
1. 図鑑集	資 2- 1
■ 3. 金沢市の概況	資 3-1
1. 社会経済状況	資 3- 1
2. 自然・生物状況	資 3- 7
3. 条例に基づく自然環境の保全状況	資 3-17
4. その他	資 3-22
■ 4. 各種アンケート結果	資 4-1
1. 市民アンケート	資 4- 1
2. 市民団体アンケート	資 4- 3
■ 5. その他	資 5-1
1. 計画策定の経過	資 5- 1
2. イラスト作成者、写真出典一覧	資 5- 2

1 用語解説

1. 用語集

【あ行】

用語	用語意味
ICT	「Information and Communication Technology」の略称。情報・通信に関連する技術一般の総称で、「情報通信技術」とも呼ばれている。
愛知目標	<p>2010年に愛知県名古屋市で開催されたCOP10において採択された、2011年以降の新たな世界目標である条約の「新戦略計画」に定められた目標を達成するための具体的な行動目標として掲げられた20項目からなる目標。生物多様性条約全体の取り組みを進めるための枠組みとして位置づけられ、今後、各国の生物多様性国家戦略の中に組み込んでいくことが求められている。我が国も愛知目標の達成に向けて、平成24年に生物多様性国家戦略の改定を行った。</p> <p>《個別目標》</p> <p>目標1:人々が生物多様性の価値と行動を認識する。</p> <p>目標2:生物多様性の価値が国と地方の計画などに統合され、適切な場合には国家勘定、報告制度に組込まれる。</p> <p>目標3:生物多様性に有害な補助金を含む奨励措置が廃止、又は改革され、正の奨励措置が策定・適用される。</p> <p>目標4:すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する。</p> <p>目標5:森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、可能な場合にはゼロに近づき、劣化・分断が顕著に減少する。</p> <p>目標6:水産資源が持続的に漁獲される。</p> <p>目標7:農業・養殖業・林業が持続可能に管理される。</p> <p>目標8:汚染が有害でない水準まで抑えられる。</p> <p>目標9:侵略的外来種が制御され、根絶される。</p> <p>目標10:サンゴ礁等気候変動や海洋酸性化に影響を受ける脆弱な生態系への悪影響を最小化する。</p> <p>目標11:陸域の17%、海域の10%が保護地域等により保全される。</p> <p>目標12:絶滅危惧種の根絶・減少が防止される。</p> <p>目標13:作物・家畜の遺伝子の多様性が維持され、損失が最小化される。</p> <p>目標14:自然の恵みが提供され、回復・保全される。</p> <p>目標15:劣化した生態系の少なくとも15%以上の回復を通じ気候変動の暖和と適応に貢献する。</p> <p>目標16:ABSに関する名古屋議定書が施行、運用される。</p> <p>目標17:締約国が効果的で参加型の国家戦略を策定し、実施する。</p> <p>目標18:伝統的知識が尊重され、主流化される。</p> <p>目標19:生物多様性に関連する知識・科学技術が改善される。</p> <p>目標20:戦略計画の効果的実施のための資金資源が現在のレベルから顕著に増加する。</p>
インベントリー	生物学では地域に分布する動植物の種類目録、分布図などのこと。また、どこにどんな動植物がいるのかを集める調査のことを「インベントリー調査」という。

1 用語解説

用語	用語意味
エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象として、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任をもつ観光のこと。
SNS	ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service) の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。
NPO (民間非営利組織)	英語「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。
屋上・壁面等の緑化	建築物の断熱性や景観の向上、生態系の創出などを目的として、屋根や屋上、壁面等に植物を植え緑化すること。

【か行】

用語	用語意味
開発行為	開発許可制度において、主として建築物の建築又は特定工作物の建設の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更をいう。 土地の区画形質の変更とは、以下の①～③のことを指し、いずれか一つでもあればこれに該当する。 ①区画の変更：道路、水路、公園などを新設、変更又は廃止すること ②形状の変更：盛土又は切土を行う造成で土地の形状を変更すること ③性質の変更：農地などの宅地以外の土地を建築物等の建築の用に供するために宅地に変更すること
外来生物法	正式名称は「特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律」。特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とした法律。問題を引き起こす海外起源の外来生物を特定外来生物として指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制し、特定外来生物の防除などを行うこととしている。
外来種	環境省の定義によれば、導入（意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。）によりその自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）の外に生育又は生息する生物種（分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む）のこと。

用語	用語意味
河岸段丘	河川が隆起性大地を侵食し、形成された、河川の流路に沿う階段状の地形。
環境と開発に関する国連会議（地球サミット）	1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議の20周年を機に、1992年にリオデジャネイロで開催された環境に関する国際会議。地球環境問題を人類共通の課題と位置づけ、地球環境保全と持続可能な開発の両立をめざして開催された。会議の結果、「環境と開発に関するリオ宣言」の採択や「気候変動枠組み条約」および「生物多様性条約」の署名が開始されるなど、大きな成果があった。また、この会議を通じて「生物多様性」という用語が世界的に認知されるようになった。
環境保全型農業	一般的には可能な限り環境に負荷を与えない農業、農法のこと。農業の持つ物質循環機能を生かし、土づくりなどを通じて化学肥料や農薬の投入を低減し、環境負荷を軽減するよう配慮した持続的な農業生産方式の総称。有機農業や自然農法、代替農業、低投入持続型農業などが含まれるが、化学資材の使用はまったく認めない無農薬・無化学肥料栽培という最も厳格な立場から、多少の使用は認めるという減農薬・減化学肥料という立場まで幅がある。
間伐	植林して、ある程度育ってから主伐されるまでの間に、繰り返し実施される間引き伐採のこと。
涵養	雨水などが自然に地下に浸透していくことをいう。地下水の保全や水源の維持に重要である。
グリーンツーリズム	農山漁村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。
こどもエコクラブ	幼児から高校生まで誰でも参加できる、環境活動のクラブである。川の生き物調査や緑のカーテンづくりなど、さまざまな環境活動を行い、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としている。
耕作放棄地	農林業センサスにおいて「以前耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作する考えのない土地」と定義されている統計上の用語のこと。
国連生物多様性の10年	2011-2020年の10年間を「国連生物多様性の10年」と定め、生物多様性の保全に向けて国際社会が協力して、活動を展開していくこととされている。2010年10月に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」において日本政府から提案され、同年12月に第65次国連総会で採択された。最終日に国連総会で採択するよう勧告することが決議されていた。

1 用語解説

用語	用語意味
国連ミレニアム生態系評価	国連の提唱により、2001年から2005年にかけて、世界の専門家が参加して行われた地球規模の生態系に関する科学的なアセスメントで、世界の生物多様性の喪失が、人類の暮らしにどのような影響を与えるかを評価したもの。その結果は15の報告書にまとめられ、地球上の生態系の劣化が増大していることや、今後の対応のシナリオによっては劣化がある程度回復出来ることを示した。

【さ行】

用語	用語意味
里山	地域住民の生活と密接な関わりを持つ集落周辺の山・森林のこと。
在来種	ある地域に現在生育する動植物のうちで、昔からあった種類をいう。外来種に対して用いられ、一般的に、郷土種と同様に使われ、自然の回復には、気候風土に合っているこれらの種類を用いるのがよいとされている。
資源管理型漁業	漁業の主役である漁業者が主体となって地域や魚種ごとの資源状態に応じ、資源管理を機動的に行うとともに、漁獲物の付加価値向上や経営コストの低減などを図ることにより、将来にわたって漁業経営の安定、発展をめざす漁業。
斜面緑地	台地または丘陵の斜面の緑地で、樹林地、草地または坂道などの緑が連続して個性的かつ良好な自然環境を形成しているもの。
植物相	特定の地域に生育する植物の種類組成のこと。
種の保存法	正式名称は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」。国内外の野生動植物種の保全を目的に、平成4年に制定された。捕獲、譲渡などの規制、および生息地など保護のための規制から保護増殖事業の実施まで多岐にわたる内容。
スプリング・エフェメラル	温帯で早春の落葉樹の開葉前に姿を現し、落葉樹の葉の展開が終わる晩春には姿を隠してしまう植物や動物の総称。
惣構	城下町を取り囲んだ、堀や土居（土手）のこと。金沢城には内・外二重の惣構が造られた。
生物多様性基本法	平成5年に施行された環境基本法の理念にのっとり、生物の多様性の保全および持続可能な利用についての原則と、保全と利用を計画的に推進するために必要な国・地方公共団体の基本となる施策を定めた法律。平成20年6月施行。
生物多様性国家戦略	生物多様性条約および生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全および持続可能な利用に関する国の基本的な計画。

用語	用語意味
生物多様性条約	正式名称は「生物の多様性に関する条約」。生物の多様性を「生態系」、「種」、「遺伝子」の3つのレベルで捉え、生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正な配分を目的とする条約。
生物多様性条約締結国 会議(COP)	生物多様性条約を締結(批准)した国による会議。1994年から1996年までは事務局など条約実施体制の基礎固めのため毎年開催されていたが、その後はおおむね2年に1回の開催となっている。

【た行】

用語	用語意味
地球温暖化	太陽の光は、地球の大気を素通りして地面を温め、その地表から放射される熱を二酸化炭素などの温室効果ガスが吸収し、大気を暖めています。地球温暖化とは、産業活動の活発化に伴い、大気中の二酸化炭素、メタン及びフロン類などの温室効果ガスの濃度が高くなることにより、地球の平均気温が上昇することをいう。 地球温暖化による異常気象や海面上昇などの影響が世界各地で顕在化しつつあり、人類の重要かつ緊急課題の一つとなっている。
地球サミット 2012 (リオ+20)	正式には「国連持続可能な開発会議」で通称「リオプラス20」と呼ばれている。1992年に開催された「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」から20年を機に、2012年にブラジルのリオデジャネイロで開催された会議。
地産地消	地産地消とは、地域生産地域消費の略語で、地域で生産された様々な資源(主に農産物や水産物)をその地域で消費すること。食や環境に関する安全・安心の点、食育や地域活性化につながる点、国の食料自給率向上につながる点などの効果が期待されている。
鳥獣保護管理法	正式名称は「鳥獣の保護および管理並びに狩猟の適正化に関する法律」。2014年に鳥獣保護法が大きく改正され、成立した。鳥獣保護管理事業計画、鳥獣の捕獲等の規制、鳥獣などの飼養・販売などの規制、鳥獣保護区、狩猟免許・登録などに関する制度、その他(雑則・罰則)について定められています。
特定外来生物	環境省の定義によれば、生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物のこと(生きているものに限られ、卵、種子、器官などを含む)。 同法で規定する「外来生物」は、海外からわが国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物を指す。

1 用語解説

用語	用語意味
特用林産物	主として森林原野において産出されてきた産物で、通常林産物と称するもののうち、一般用材を除く品目の総称。シイタケ、マツタケなどのきのこ類、ワラビ、ゼンマイなどの山菜類、クリ、ギンナンの樹実類など、森林から生産されるもののうち、木材以外のものすべてを指す。
動物相	特定の地域に生息する動物の種類組成のこと。

【な行】

用語	用語意味
名古屋議定書	遺伝資源の利用と公正な利益配分に関する国際的な取り決め。平成22年に名古屋市で開催されたCOP10で採択された決議の一つ。
2010年目標	生物多様性条約の締約国は、2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させるという目標。2002年にハーグで開催された生物多様性条約COP6で採択されたもの。
日本海要素	雪が多いことと対馬暖流の影響と、海岸から亜高山地まで変化に富む地形条件により、暖地性、寒地性両方の植物が混在するため、日本海地域に主に分布する種類の植物種。本市では、ユキツバキや、ユキツバキとヤブツバキの自然交雑種であるユキバタツバキが非常に多く自生している。

【は行】

用語	用語意味
保存樹・保存樹林	緑豊かな都市環境の確保、美観、風致を維持するために「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律（略称：都市樹木保存法）」に基づき市長が指定する景観樹・樹林のこと。

【ま行】

用語	用語意味
猛禽類	タカ目・フクロウ目をはじめとした、肉食で獲物を捕らえるために体を進化させた鳥類の総称。日本には、タカ目26種、ハヤブサ目8種、フクロウ目12種が生息している。狩りをするための優れた視覚、鋭い爪とくちばし、強くて丈夫な脚などの共通した特徴がある。
木質ペレット	間伐材や製材端材を粉碎して固めた燃料でペレットストーブなどに使用されている。灯油のような液体燃料と違い、漏れたり浸みたりする心配がなく、イヤな臭いもなく、二酸化炭素の排出量削減に大きな効果が期待できるペレット燃料は再生可能な地上資源として、地球温暖化問題の解決策としても注目を集めている。

【ら行】

用語	用語意味
6次産業化	生産した農林水産物を活用して新商品を開発し、新たな販路の開拓（輸出も含む）等を行う取り組みのこと。

2 金沢市を代表する生物図鑑

1. 図鑑集

希少な動植物



カタクリ

○分類：植物

○科目：ユリ科

●形態的特性：早春、茎の先に一輪の花を着けます。種子はアリに運ばれ、また芽生えから花が咲くまでに8年前後かかると言われています。夏には地上部は枯れてしまい球根で“夏眠”する、代表的な「春植物」です。

(文章出典：石川県農林水産部農林総合研究センター林業試験場 HP
いしかわ森林図鑑_樹木公園 花 map より)



シロマダラ

○分類：爬虫類

○科目：ナミヘビ科

●形態的特性：体長は0.3~0.7m。夜行性で、あまり人目につくことはないです。

«成蛇» 体色は淡褐色で、黒色の横斑が並びます。

«幼蛇» 成蛇に比べ褐色味が弱く、後頭部左右の白い斑紋が目立ちます。

(写真提供：坂野謙志氏)

(文章出典：石川県農林水産部農林総合研究センター林業試験場 HP
いしかわ森林図鑑_へび図鑑より)



ギフチョウ

○分類：昆虫類

○科目：アゲハチョウ科

●形態的特性：開張 50mm 程度の中型種である。黄色と黒のだんだら模様で、後翅に赤、橙、青の斑紋と尾状突起があります。主に落葉広葉樹林に生息し、ヒメカンアオイ、ナタデラカンアオイを食草としています。

（文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より）



ゲンジボタル

○分類：昆虫類

○科目：ホタル科

●形態的特性：雄は体長 10～18mm 程度。雌は体長 15～20mm 程度。背中（胸）に黒の十字型模様があります。ゆらゆらと上下に飛び、発光のしかたはゆっくり一斉に明滅します。

（文章（一部）出典：金沢市 環境政策課 HP 金沢ホタルマップより）



クロサンショウウオ

○分類：両生類

○科目：サンショウウオ科

●形態的特性：全長約 15cm、暗褐色～黒褐色でしばしば黄褐色の斑紋があります。尾は長く全長の半分近くになります。幼生はバランサーを持ち尾に黒斑があります。卵嚢は白～半透明のアケビ型です。

（文章出典：岐阜県 環境企画課 HP 自然保護_クロサンショウウオ より）



マガソウ

○分類：鳥類

○科目：カモ科

●形態的特性：全長 65～86cm。雌雄同色。全身灰褐色で下面は淡色。成鳥は嘴がオレンジ色またはピンクで嘴基部周辺が白い。腹に不規則な黒い横斑があり尾に白帯があります。足はオレンジ色。秋の幼鳥は嘴が濁黄色で、先端などが黒く、額の白と腹の黒斑を欠きます。

(文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より)



ヒシクイ

○分類：鳥類

○科目：カモ科

●形態的特性：全長 78～100cm。マガソウより大きく、顔や首はマガソウより暗色に見えます。上・下尾筒は白く、尾羽は灰黒色で先端は白い。嘴の大部分は黒く、先端近くにオレンジ色があります。足はオレンジ色。飛翔はマガソウより重そうで、飛び立ちにはある程度の助走を要します。

(文章出典：フィールドガイド日本の野鳥より)



サシバ

○分類：鳥類

○科目：タカ科

●形態的特性：全長約 50cm。雄より雌の方がやや大きい。カラス大のタカ。頭部が灰褐色、上面や胸は茶褐色。喉は白く、中央に1本縦斑があります。腹など下面是白く、茶褐色の太い黄斑があります。

(文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より)



洞窟性類コウモリ類

○分類：哺乳類

○科目：ヒナコウモリ科

«テングコウモリ»

●形態的特性：前腕長 40～46mm、頭胴長 47～70mm、尾長 32～47mm、体重 8～19g。大木の多い地域では樹洞を昼間の隠れ家にするが、洞穴内でもよく見つかります。

(文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より)

«その他»

○種名：キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ



ニホンカモシカ

○分類：哺乳類

○科目：ウシ科

●形態的特性：ニホンカモシカは肩高 66 cm、頭胴長 130 cm あり、上顎の門歯と犬歯を欠いています。また雌雄ともに長さ約 15cm の、後方にゆるく曲がる黒色の角をもちます。

(文章出典：石川県 教育委員会文化財課 HP
カモシカ・岩間の噴泉塔群_カモシカ より)



ハッタミミズ

○分類：ミミズ類

○科目：ジュズイミミズ科

●形態的特性：体長は青黒色。日本一長いミミズで、生きているときは伸びた体調が 60cm ほどになります。固定標本では長さ 25 cm ほど、太さ 9 mm ほどです。

(写真提供：川原奈苗氏)

(文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より)



イソコモリグモ

○分類：クモ類

○科目：コモリグモ科

●形態的特性：体長が雌 23mm 前後、雄 19mm 前後。背面は明るい灰色で数対の淡黒斑があり、腹面は全体に真っ黒です。

(写真提供：富沢章氏)

(文章出典：いしかわレッドデータブック 2020 より)



ゴリ（カジカ属、ヨシノボリ属等）

○分類：魚類

«カジカ属»

○科目：カジカ科

●形態的特性：全長約 15cm。河川陸封性の大型卵型と両側回遊性で川の中・下流域に生息する小型卵型の2つのタイプがあります。

«ヨシノボリ属（カワヨシノボリ、オオヨシノボリ、ルリヨシノボリ、トウヨシノボリ、シマヨシノボリなど）»

«チチブ属»

«ウキゴリ属»

«ドンコ属»

○科目：ハゼ科

●カワヨシノボリ形態的特性：全長約 6cm。体側中央に 7~10 個の縦斑が 1 列に並び、ほほに小さな黒点が散在します。



(写真・文章出典：金沢市 環境保全課

金沢のさかな（平成9年3月改定） より)

特定外来生物



アライグマ

- 分類：哺乳類
- 科目：アライグマ科
- 形態的特性：頭胴長 40~60 cm、尾長 20~40 cm。体重 4~10 kg。雄は雌よりやや大きくなります。尾の黒い輪（横じま）が目立ち、顔にはサングラスのような目を覆う黒い帯があります。

（写真出典：環境省）

（文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP）

石川県で確認されている特定外来生物より）



ウシガエル

- 分類：両生類
- 科目：アカガエル科
- 形態的特性：体長 111~183 mm。県内で見られるガエルの中で最大です。後足は大きく、みずかきが良く発達します。鼓膜の直径は眼の 0.9~1.7 倍と大きく、よく目立ちます。

（写真出典：環境省）

（文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP）

石川県で確認されている特定外来生物より）



セアカゴケグモ

- 分類：クモ・サソリ類
- 科目：ヒメグモ科
- 形態的特性：個体の大きさは、メスが約 7~10mm、オスが約 4~5mm です。全体が黒色で、メスの腹部背面中央には、砂時計の形をした赤又は橙色の縦斑紋があります。オスの腹部背面中央には、赤い斑紋はありません。毒を持っているのはメスのみです。

（写真出典：環境省）

（文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP）

石川県で確認されている特定外来生物より）



ブラックバス (オオクチバス、コクチバス)

○分類：魚類

○科目：サンフィッシュ科

《オオクチバス》

●形態的特性：全長30~50cm。口が大きく、上あごの後ろの端が眼の後縁の直下よりも後ろに達します。

《コクチバス》

●形態的特性：オオクチバスに似ますが、上あごの後ろ端が眼の後縁よりも後にならないこと、体は黄褐色で十数本の背~腹方向の縞模様があることなどで見分けられます。

(写真提供：石川県内水面水産センター)

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP)

石川県で確認されている特定外来生物より)



ブルーギル

○分類：魚類

○科目：サンフィッシュ科

●形態的特性：全長25cm。雌雄とも、鰓ぶたの後ろ端のやや突出した部分が濃紺ないし黒なのが、英名の由来。産卵期の雄は淡青色、黄色、朱色の鮮やかな婚姻色を表します。

(写真・文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP)

石川県で確認されている特定外来生物より)



オオキンケイギク

○分類：植物

○科目：キク科

●形態的特性：高さ0.3~0.7mになる多年生草本です。鮮やかな黄色の舌状花をもつ頭花をつけます。根元から多数の茎を伸ばして株立ち状になります。種子には薄いひれがあります。

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP)

石川県で確認されている特定外来生物より)



アレチウリ

○分類：植物

○科目：ウリ科

●形態的特性：数m～10数mの長さになるつる状の一年生草本です。果実には鋭い棘を密生します。種子はカボチャの種に似ています。

(写真出典：環境省)

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP

石川県で確認されている特定外来生物より)



オオカワヂシャ

○分類：植物

○科目：ゴマノハグサ科

●形態的特性：0.3～1mになる多年生草本です。多数の淡紫色の花を総状につけます。地下茎を持ち、群生します。

(写真出典：石川県生活環境部自然環境課 HP

石川県で確認されている特定外来生物より)



オオハンゴンソウ

○分類：植物

○科目：キク科

●形態的特性：0.5～3mになる多年生草本です。黄色の舌状花のある頭花をつけます。地下茎が横に走っていて、群生します。

(写真出典：環境省)

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP

石川県で確認されている特定外来生物より)

その他生態系に影響を及ぼす外来種



ミシシッピアカミミガメ

○分類：爬虫類

○科目：ヌマガメ科

●形態的特性：背甲長 28 cm、体重 2 kgに達し、雌の方が大きくなります。背甲の中央に弱い 1 本の隆条があり、背甲の後縁には少しぎざぎざになっています。頭の両側のオレンジ色の斑紋が目立ちます。

(写真出典：環境省)

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP)

石川県で確認されている特定外来生物より)



アメリカザリガニ

○分類：甲殻類

○科目：アメリカザリガニ科

●形態的特性：体長 8cm 程度。胸脚のうち、1 対は大きいハサミになっています。雄のハサミは特に大きくなります。体色は淡褐色から鮮赤色です。

(文章出典：石川県生活環境部自然環境課 HP)

石川県で確認されている特定外来生物より)



スジアカクマゼミ

○分類：昆虫類

○科目：セミ科

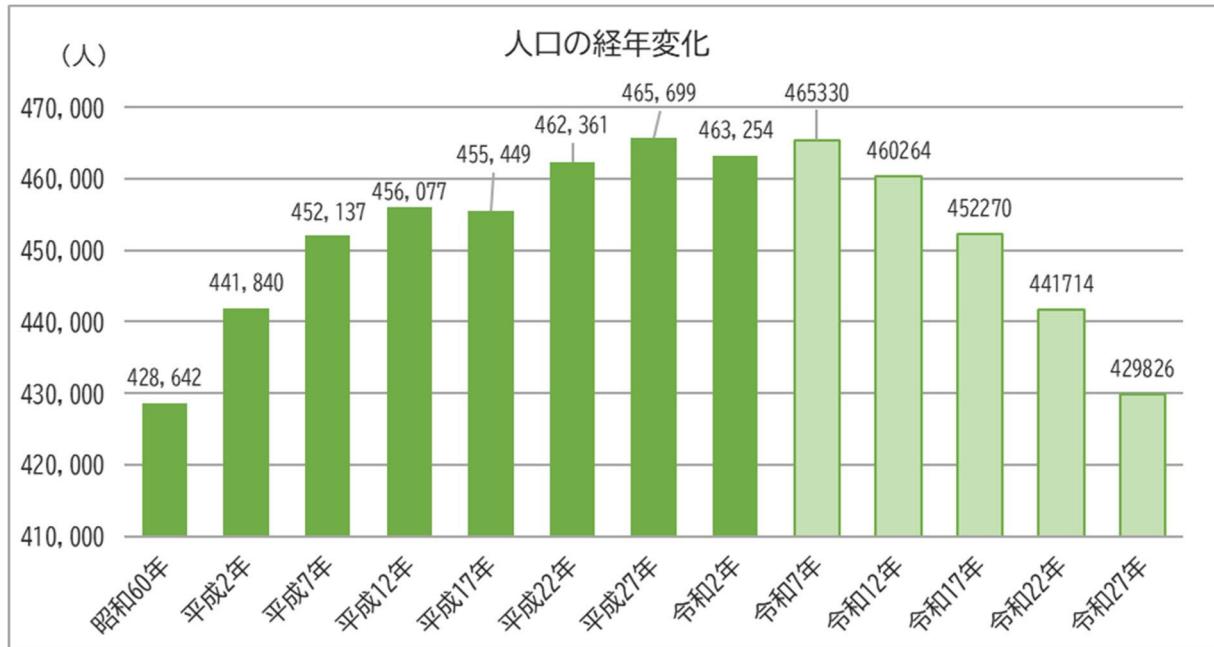
●形態的特性：全長は 60~70mm 程度。国内で金沢市の一部にしかいません。鳴き声は日本のクマゼミとはまったく異なり、「ジャーハー」という単調なもので、1 匹が鳴き始めると周りのオスもそれに合わせ、大合唱になります。

(写真・文章（一部）出典：金沢市 環境政策課 HP より)

3 金沢市の概況

1. 社会経済状況

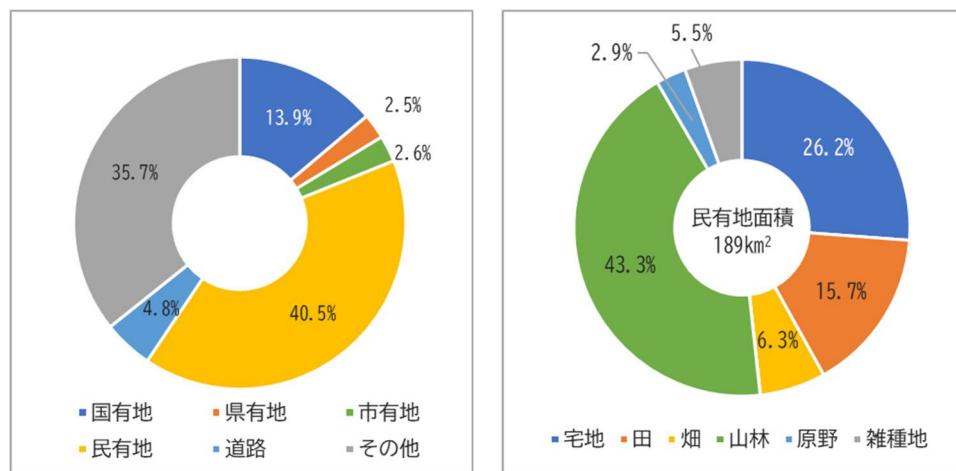
1-1. 金沢市の人口



出典：令和2年までは国勢調査、それ以降は国立社会保障・人口問題研究所

1-2. 土地利用状況と産業

①土地利用状況



出典：金沢市統計データ集

3 金沢市の概況

②産業別就業者数

産業別就業者数（人）

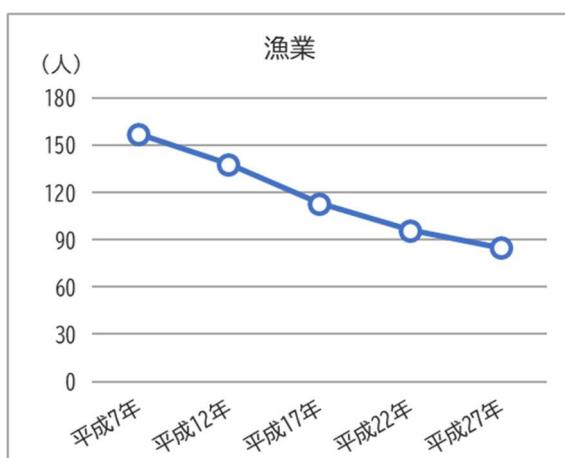
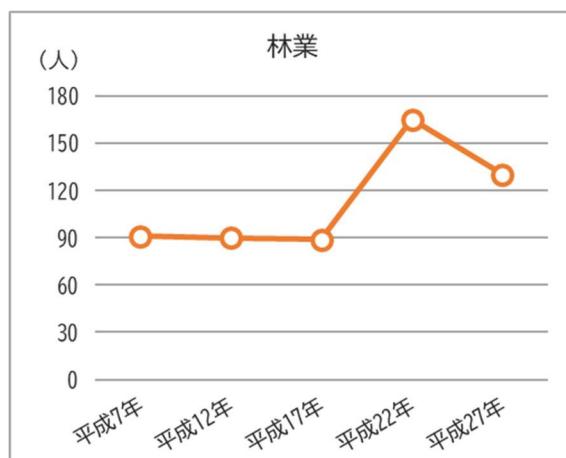
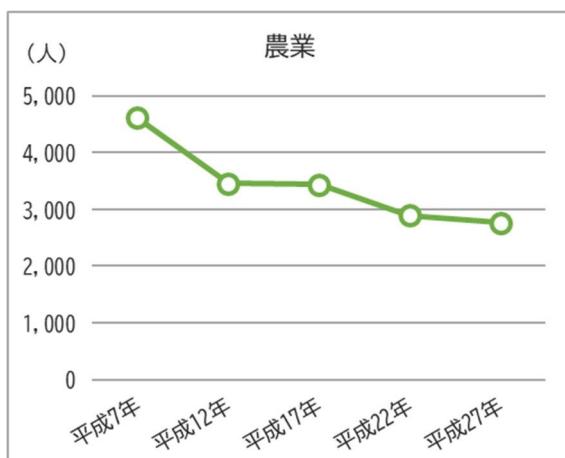
年	第一次産業	第二次産業	第三次産業
平成7年	4,992	61,086	156,868
平成12年	4,863	61,959	169,427
平成17年	3,637	51,293	167,337
平成22年	3,150	46,508	161,389
平成27年	2,982	46,465	161,077

出典：平成 27 年度国勢調査

第一次産業の就業者数（人）

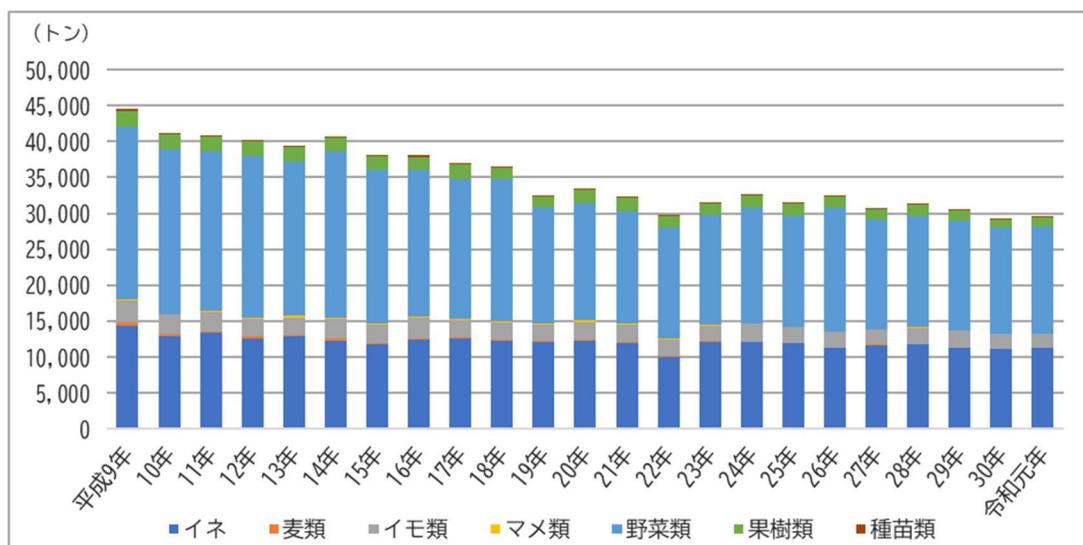
年	農業	林業	漁業
平成7年	4,615	91	157
平成12年	3,458	90	138
平成17年	3,435	89	113
平成22年	2,889	165	96
平成27年	2,767	130	85

出典：平成 27 年度国勢調査



③金沢市の農業

農作物別収穫高の推移(花き類除く)



農作物別収穫高の推移

単位：トン、ただし花き類は千本

年	イネ	麦類	イモ類	マメ類	野菜類	果樹類	花き類	種苗類
12年	12,600	245	2,450	210	22,428	2,167	11,828	187
17年	12,500	261	2,298	174	19,566	1,978	9,050	161
22年	10,000	120	2,274	80	15,575	1,533	2,496	154
27年	11,600	73	2,166	56	15,227	1,517	3,180	143
28年	11,700	79	2,285	42	15,528	1,517	2,885	114
29年	11,200	82	2,426	41	15,248	1,443	2,577	129
30年	11,100	42	2,024	29	14,723	1,138	2,401	135
令和元年	11,200	56	1,981	28	14,831	1,268	2,788	135

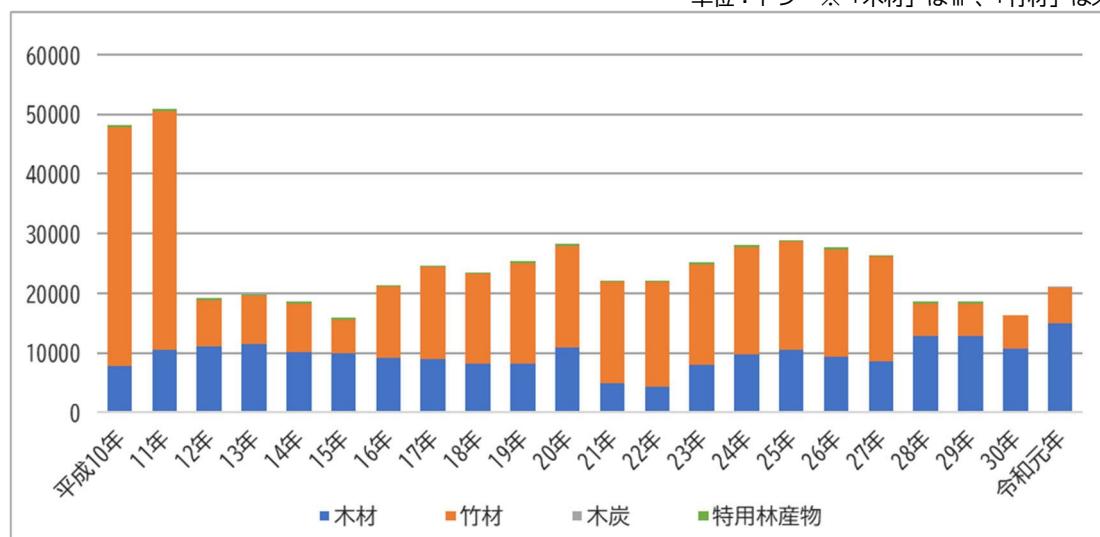
出典：令和2年度 金沢市統計書

3 金沢市の概況

④金沢市の林業

林業生産量の推移

単位：トン ※「木材」はm³、「竹材」は束



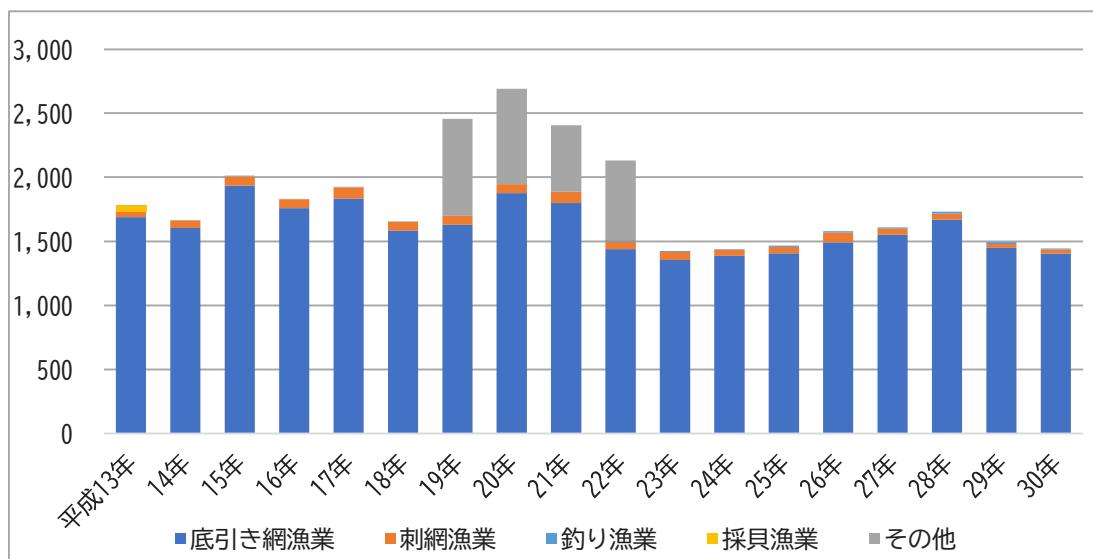
年	木材	竹材	木炭	特用林産物				合計	
				しいたけ		なめこ	えのきだけ		
				生	乾				
平成10年	7,800	40,000	18	47	0.5	168	166	382	
11年	10,500	40,000	19	54	1	160	139	354	
12年	11,000	7,900	12	59	1	174	126	360	
13年	11,500	8,000	13	49	0	165	128	342	
14年	10,100	8,200	12	52	0	155	134	341	
15年	10,000	5,600	14	52	0	183	135	370	
16年	9,200	11,900	14	47	0	177	127	351	
17年	8,900	15,500	9	47	0	147	100	294	
18年	8,200	15,000	7	56	0	115	106	277	
19年	8,100	17,000	4	61	0	124	102	287	
20年	10,900	17,000	7	59	1	128	102	290	
21年	4,900	17,000	4	66	0	121	116	303	
22年	4,400	17,500	3	78	1	127	115	321	
23年	8,000	16,900	5	64	1	135	71	271	
24年	9,800	18,000	5	60	0	141	94	295	
25年	10,600	18,000	5	80	0	167	98	345	
26年	9,400	18,000	1	21	0	149	107	277	
27年	8,600	17,500	2	78	0	119	127	324	
28年	12,738	5,600	0.5	23	0.1	118	85	226	
29年	12,732	5,600	0.5	89	0.15	106	73	268	
30年	10,658	5,600	0	94	0.5	115	56	266	
令和元年	14,926	6,100	0.6	21	0.2	111	95	227	

出典：金沢市統計データ集

⑤金沢市の漁業

漁獲量の推移

単位：トン



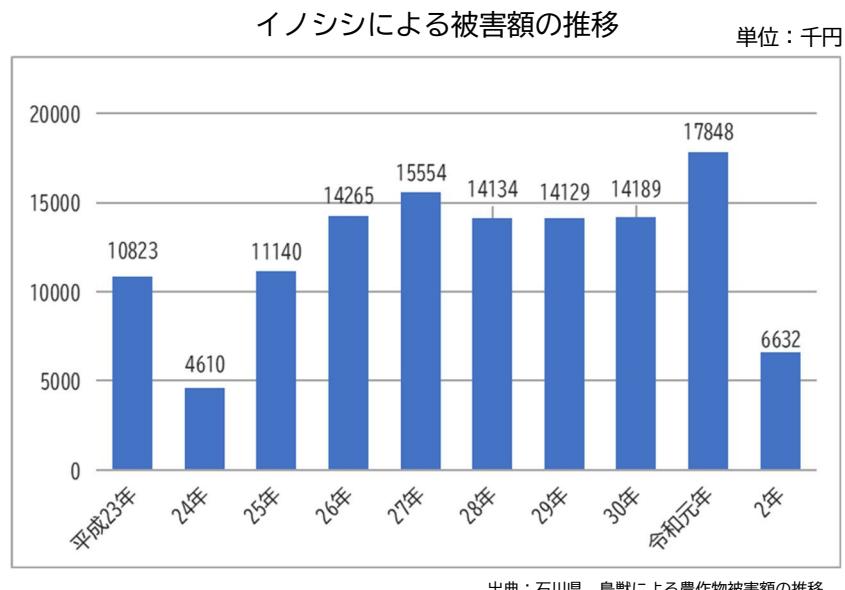
年	底引き網漁業	刺網漁業	釣り漁業	採貝漁業	その他	漁獲量計
平成13年	1,688	40	1	52	4	1,785
14年	1,603	60			4	1,667
15年	1,935	72		0	6	2,013
16年	1,758	70			3	1,831
17年	1,835	87			4	1,926
18年	1,584	67			5	1,656
19年	1,630	68			759	2,457
20年	1,876	69			746	2,691
21年	1,799	91		0	517	2,407
22年	1,438	61	9		624	2,132
23年	1,355	61	8			1,424
24年	1,387	47	6			1,440
25年	1,406	50	10			1,466
26年	1,491	77	12			1,580
27年	1,551	51	8			1,610
28年	1,669	48	14			1,731
29年	1,448	30	15	0		1,493
30年	1,404	32	7	0		1,443

「0」：1トンに満たない
出典：金沢市統計データ集

※令和元年調査より市町村別の統計を廃止しているため、H30年までの推移と内訳を記載

3 金沢市の概況

⑥農林業における鳥獣被害

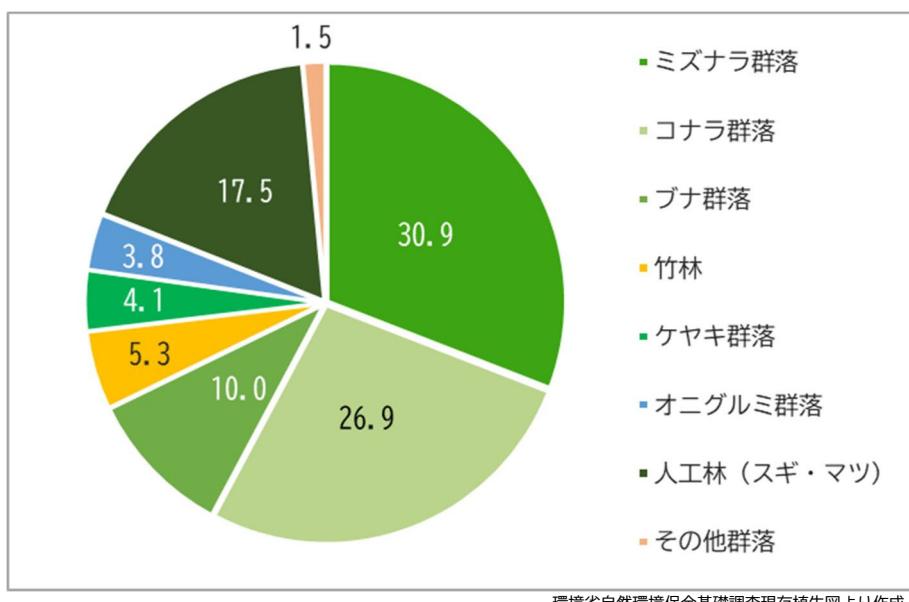


鳥獣被害状況と対策

鳥獣名	被害状況	対策
イノシシ	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域全域のほか一部の平地にも被害が拡大している。 収穫前の水稻やタケノコ、イモ類などへの被害に加え、水田の畦畔や水路、農道、林道等の掘り起しなど、農業施設等への被害も拡大している。 市街地への出没も増加しており、捕獲、追い払い等の対策強化が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の被害対策に併せ、県内外への被害拡大を防止するため、重点的な取組を実施する。 中山間地域において、藪の刈り払いによる緩衝帯の設置や、侵入防止柵、捕獲檻の設置等、集落ぐるみによる総合的な対策を推進、支援する。 新たな資材の導入により、防護柵の開口部対策や法面の掘り起こし対策について実証する。 有害鳥獣捕獲隊による捕獲を行い、個体数の減少に向けた取組を実施する。 講習会等を実施し、捕獲従事者の育成・確保を図る。 集落での捕獲檻購入を支援する。 獵免許の取得を支援する。 補助者制度を活用した捕獲を実施する。 出没情報の収集・伝達を速やかに行い、住民の被害防止に努める。
ニホンザル	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域の野菜や果樹類に被害が発生している。 水稻への被害も発生している。 群れでの出没区域が拡大しており、被害の拡大が懸念される。 群れとは別に単独で行動するハナレザルが、各地に出没している。 	<ul style="list-style-type: none"> 侵入防止柵設置などの被害防止の取組を実施する。 被害情報の把握とともに追い払いを含め被害防止対策の普及啓発を行う。 モンキードッグを用いた追い払いを実施する。 発信器を取り付け、行動を追うテレメトリ調査を実施し、銃器による一斉捕獲及び追い払いを行う。 大型檻を用いた捕獲を実施し、個体数調整を行う。 出没情報の収集伝達を速やかに行い、住民の被害防止に努める。
カラス	<ul style="list-style-type: none"> 収穫前のスイカやサツマイモ、直播きや田植え後の水稻に被害が発生している。 直播きの水稻面積が拡大すれば、被害も増加すると予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> 防鳥ネット等の設置や銃器による捕獲、鷹匠による追い払い等、被害防止に向けた取組を実施する。 より有効な防除、追い払いについて、新たな資材等の導入、実証を行う。

2. 自然・生物状況

2-1. 金沢市の植生



3 金沢市の概況

市内に見られる植物群落・群集

植生区分	大項目	群落・群集名	面積(ha)
コケモートウヒクラス域自然植生	亜高山帯広葉樹林	ミドリユキザサードケカンバ群集	3.8
	落葉広葉樹林(日本海型)	チシマザサープナ群団	1,739.1
		スギーブナ群落	3.3
	冷温帯針葉樹林	アカミノイヌツゲークロベ群集	11.8
ブナクラス域自然植生	渓畔林	ジュウモンジシダーサワグルミ群集	1.4
		チャボガヤーケヤキ群集	1,129.6
	なだれ地自然低木群落	なだれ地自然低木群落	885.7
		ヒメヤシャブシータニウツギ群落	281.9
	自然草原	自然草原	5.1
ブナクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	オオバクロモジーミズナラ群集	8,664.6
		ブナ二次林	1,055.2
		ユキグニミツバツツジーコナラ群集	7,554.9
		クマシデ群落	44.4
		オニグルミ群落(V)	1,065.4
		アカマツ群落(V)	10.0
	落葉広葉低木群落	落葉広葉低木群落	216.5
	二次草原	ススキ群団(V)	219.2
	伐採跡地群落	伐採跡地群落(V)	16.2
ヤブツバキクラス域自然植生	常緑広葉樹林	ヤブコウジースダジイ群集	8.0
		イノデータブノキ群集	3.1
		ケヤキ群落(VI)	22.8
		ムクノキーエノキ群集	0.7
	河辺林	ヤナギ高木群落(VI)	1.7
		ヤナギ低木群落(VI)	3.3
		ドクウツギーアキグミ群集	0.3
ヤブツバキクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	ミズキ群落	189.5
	常緑針葉樹二次林	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	19.3
	低木群落	低木群落	35.5
		クズ群落	19.0
	二次草原	ススキ群団(VII)	547.6
	伐採跡地群落	伐採跡地群落(VII)	50.9
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生など	湿原・河川・池沼植生	ヨシクラス	45.0
		ツルヨシ群集	5.2
	砂丘植生	ハマグルマーハマゴウ群集	1.5
		ハマグルマーコウボウムギ群集	0.0
植林地、耕作地植生	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林	4,155.3
		アカマツ植林	626.4
		クロマツ植林	129.7
		ニセアカシア群落	120.0
	竹林	竹林	35.4
		モウソウチク林	1,447.3
	牧草地・ゴルフ場・芝地	ゴルフ場・芝地	558.6
		牧草地	52.5
	耕作地	路傍・空地雑草群落	409.5
		放棄烟雑草群落	16.5
		果樹園	152.7
		烟雑草群落	850.1
		水田雑草群落	3,897.8
		放棄水田雑草群落	166.5
その他	市街地など	市街地	6,724.5
		緑の多い住宅地	1,638.3
		残存・植栽樹群をもった公園、墓地など	254.6
		工場地帯	411.8
		造成地	327.9
		開放水域	922.2
		自然裸地	77.7
		残存・植栽樹群地	11.9

2-2. 野生動植物の現況

①金沢市で確認された動植物、希少な動植物の種数

金沢市で確認された動植物、希少な動植物の種数

分類群	金沢市で確認された動植物			希少な動植物の種数				
	目数	科数	種数	天然記念物	希少野生動植物		絶滅危惧種	
					国	県	国	県
植物	62目	178科	1855種	—	—	4種	39種	164種
動物	哺乳類	7目	18科	45種	2種	1種	—	1種
	鳥類	21目	68科	359種	10種	21種	2種	46種
	爬虫類	2目	10科	18種	—	3種	—	3種
	両生類	2目	6科	18種	—	—	—	—
	魚類	12目	41科	105種	—	—	2種	14種
	昆虫類	25目	430科	3193種	—	1種	1種	26種
	その他動物	24目	90科	232種	—	—	1種	2種
合計		155目	841科	5825種	12種	26種	10種	131種
289種								

出典：「金沢市動植物生息・生育調査」（平成21年3月）

※その他生物：ウズムシ類、貝類、ミミズ類、ヒル類、クモ類、甲殻類、多足類

※絶滅危惧種：レッドリストおよびレッドデータブックで絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類に選定された種

※希少な動植物の種数：天然記念物、希少野生動植物、絶滅危惧種に該当する種に重複する場合あり



植物（オオバクロモジ）



哺乳類（イタチ）



両生類（カジカガエル）



魚類（シマドジョウ）

3 金沢市の概況

②希少種および絶滅危惧種の基準

希少種および絶滅危惧種の選定基準

選 定 基 準		カテゴリー
希少種	『天然記念物（文化財保護法）』 (昭和25年 法律第214号)	国指定天然記念物（国天） 国指定特別天然記念物（国特天）
	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年 法律第75号）	国内希少野生動植物種（国内） 国際希少野生動植物種（国際）
	『ふるさと石川の環境を守り育てる条例』 (平成16年 条例第16号)	石川県指定希少野生動植物種（県指）
絶滅危惧種	『環境省第4次レッドリスト（2012）』 (環境省報道発表資料)	絶滅(EX)
	<哺乳類>（平成24年）	野生絶滅種(EW)
	<鳥類>（平成24年）	絶滅危惧 I A類(CR)
	<爬虫類・両生類>（平成24年）	絶滅危惧 I B類(EN)
	<昆虫類>（平成24年）	絶滅危惧 II類(VU)
	<汽水・淡水魚類>（平成25年）	準絶滅危惧(NT)
		情報不足(DD)
		絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
	『改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 一いしかわレッドデータブック』（石川県）	絶滅(EX)
	<動物編>（平成21年）	野生絶滅種(EW)
	<植物編>（平成22年）	絶滅危惧 I 類(CR+EN) 絶滅危惧 II類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)

※■は絶命危惧種に含まないカテゴリ



コアジサシ

2-3. 外来生物の脅威

本市で生息・生育が確認されている特定外来生物(全10種)

分類	種名
植物	アレチウリ
	オオキンケイギク
	オオハンゴンソウ
	オオカワヂシャ
両生類	ウシガエル
魚類	オオクチバス
	コクチバス
	ブルーギル
哺乳類	アライグマ
クモ・サソリ類	セアカゴケグモ

本市で生息・生育が確認されている特定外来生物以外の主な外来生物

分類	種名
植物	チクゴスズメノヒエ
爬虫類	ミシシッピアカミミガメ
昆虫類	スジアカクマゼミ
甲殻類	アメリカザリガニ



スジアカクマゼミ

3 金沢市の概況

2-4. 注目すべき自然環境など

①天然記念物

市内の天然記念物

種別		名称	所在地	指定年月日
国指定	特別天然記念物	ニホンカモシカ	地域を定めず	昭和30年2月15日
	天然記念物	山科の大桑層化石産地と甌穴	山科町	昭和16年1月27日
		松月寺のサクラ	寺町5-5-22	昭和18年8月24日
		堂形のシイノキ	広坂2-1-1	昭和18年8月24日
		イヌワシ	地域を定めず	昭和40年5月12日
		マガツ	地域を定めず	昭和46年6月28日
		ヒシクイ	地域を定めず	昭和46年6月28日
県指定	天然記念物	並木町のマツ並木	並木町	昭和15年1月6日
		持明院の妙蓮生育地	神宮寺3-12-15	昭和63年1月8日
		下涌波のモウソウキンメイチク林	下涌波町鳥毛15	平成14年8月27日
市指定	天然記念物	大野湊神社社叢	寺中町ハ163	昭和57年3月1日
		東原のみずばしょう自生地	東原町コ75-1	昭和58年4月1日
		板ヶ谷町八幡神社スギ	板ヶ谷町	平成元年5月1日
		妙法寺のドウダンツツジ	寺町4-2-6	平成20年3月11日
		国見町八幡神社社叢	国見町口127	令和2年9月25日



東原のみずばしょう

②用水・わき水

<用水>

金沢の用水網

番号	名称	番号	名称
1	河原市用水	29	寺津用水
2	森下三ヶ用水	30	長坂用水
3	五百石用水	31	大桑用水
4	柳橋四ヶ用水	32	法島用水
5	一乃用水（神谷内用水）	33	雀谷川
6	小坂用水	34	沼田川
7	宮保用水	35	泉用水
8	須崎用水	36	境川
9	蚊爪用水	37	増泉川
10	北間用水	38	中村高畠用水
11	大河端用水	39	玉鉢用水
12	五郎兵衛用水	40	入江用水
13	表用水	41	東力用水
14	小橋用水	42	黒田用水
15	中島用水	43	宗門用水
16	割出用水	44	稚日野用水
17	鞍月用水（一部、旧西外・内惣構掘）	45	五ヶ用水
18	樋俣用水	46	専光寺用水
19	示野用水	47	豊穂用水
20	新川	48	福増用水
21	大豆田用水	49	上安原用水
22	大野庄用水	50	中屋用水
23	辰巳用水（下部は旧西外・内惣構掘）	51	新川用水
24	九人橋川（旧東内惣構掘）	52	森戸用水
25	源太郎川（一部、旧東外惣構掘）	53	矢木用水
26	勘太郎川	54	天口用水
27	田井・旭用水	55	母衣町川（旧西内惣構掘）
28	金浦用水		

※赤字は保全指定用水で、用水保全基準が定められています。

<わき水>

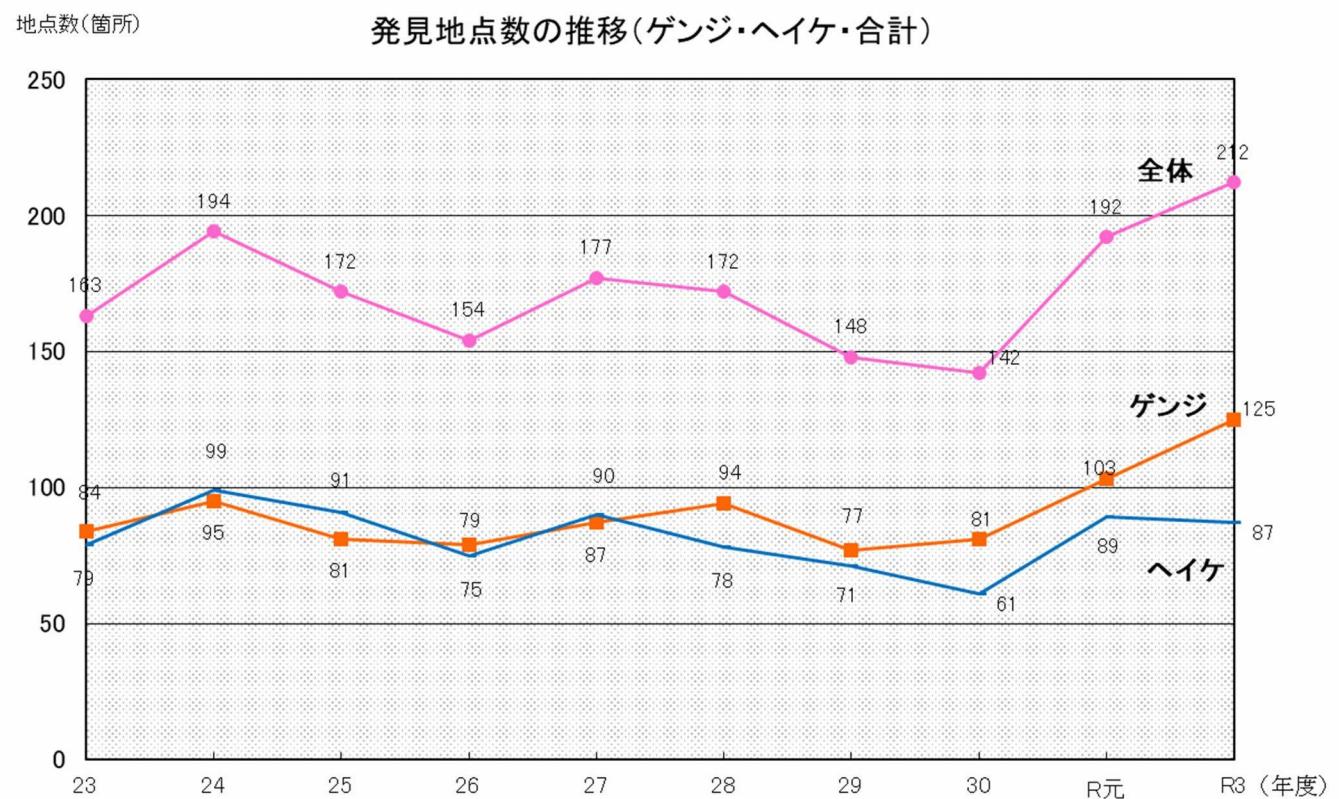
市内の主なわき水

番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	塚崎のわき水	6	石浦神社のわき水	11	法島不動尊のわき水
2	神谷内の自噴井群	7	金城靈沢	12	上の清水（粟崎町）
3	小金の泉	8	馬坂不動寺の靈水	13	もっこり群
4	鳴和の滝	9	旧長谷川町の清水		
5	卯辰山花菖蒲園のわき水	10	大清水		

出典：金沢市ホームページ

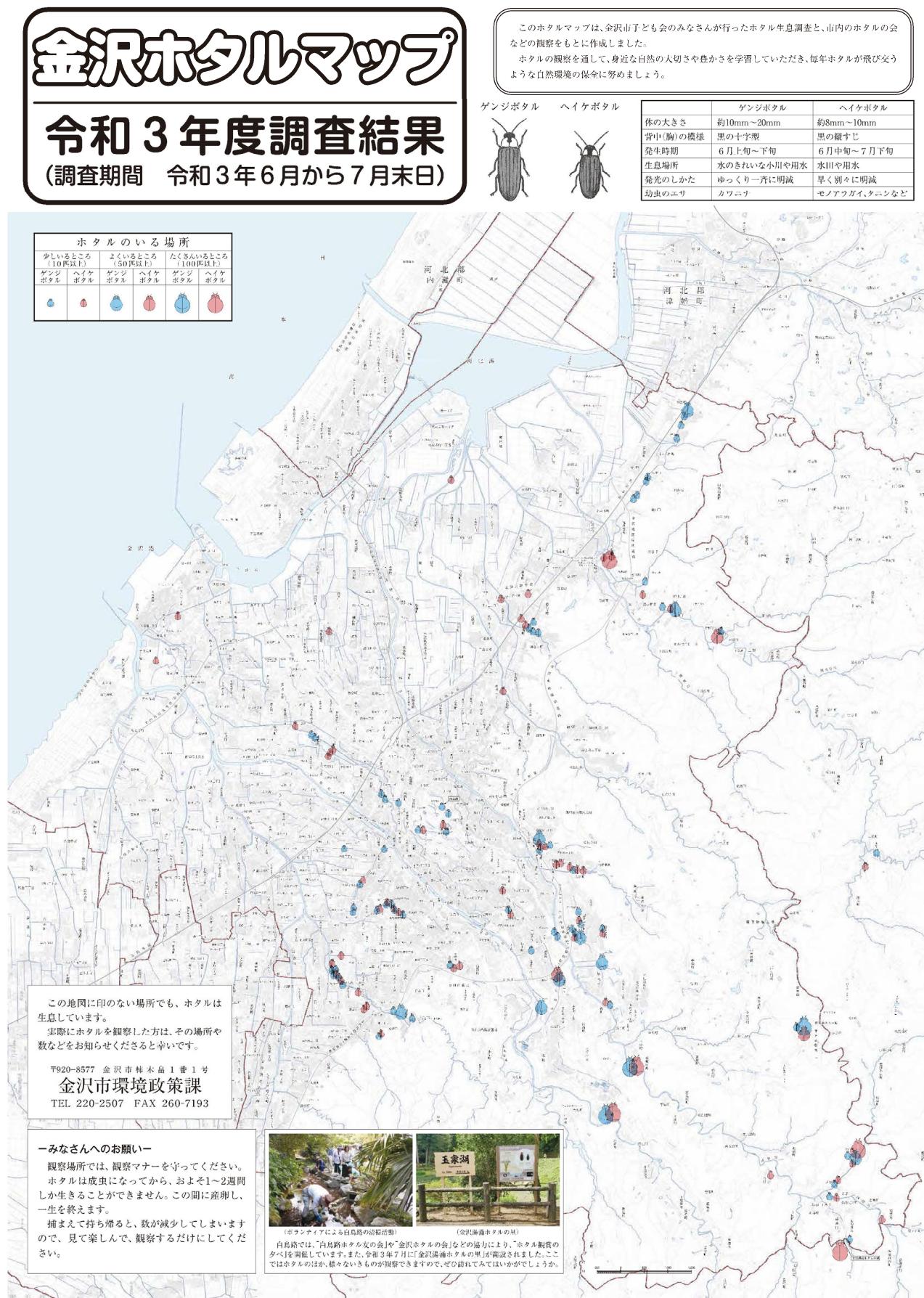
3 金沢市の概況

③ホタルの観測地点数の推移（過去10年間）



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止しています

<金沢ホタルマップ（令和3年度調査結果）>



3 金沢市の概況

④巨樹・巨木

市内の巨木の樹種と本数

樹種名	本数	樹種名	本数	樹種名	本数	樹種名	本数
アカガシ	1	エノキ	10	サカキ	2	ヒメコマツ	6
アカマツ	5	オニグルミ	1	サワラ	1	フジ	3
アベマキ	3	カラスザンショウ	2	シラカシ	1	ブナ	3
イタヤカエデ	5	キタコブシ	1	シロダモ	1	モチ	8
イチョウ	10	ギンモクセイ	2	スギ	44	モミ	15
イヌマキ	2	クスノキ	3	スダジイ	20	ヤマザクラ	1
イロハモミジ	3	クロマツ	15	ソメイヨシノ	1	ヤブツバキ	2
ウメ	2	ケヤキ	59	タブノキ	16	種数	37種
ウラジロガシ	4	コウヤマキ	1	タラヨウ	2	総本数	259本
ウワミズザクラ	1	コウヨウザン	1	ヒノキ	2		

国指定天然記念物の巨樹・巨木

呼称	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	所在地
松月寺の御殿桜	ヤマザクラ	8	781	寺町5丁目 松月寺
堂形のシイ	スダジイ	13	750	広坂2丁目 旧県庁前左側
堂形のシイ	スダジイ	12	750	広坂2丁目 旧県庁前右側

⑤保存樹など

区分	保存樹	保存樹林	景観樹	景観樹林
本数・箇所数	131本	58箇所	13本	1箇所

3. 条例に基づく自然環境の保全状況

3-1. 自然公園・自然環境保全区域の指定

自然公園（県立自然公園）の指定状況

公園名	指定年月日 (変更指定年月日)	面積 (ha)	関係市町	興味地点
獅子吼・手取 県立自然公園	昭和42年10月1 (昭和62年5月28日)	6410※	金沢市 小松市 白山市	獅子吼高原、鳥越高 原、手取峡谷
医王山 県立自然公園	平成8年3月29日	2940	金沢市	奥医王山、白兀山、大 沼、トンビ岩、三蛇ヶ 滝

※獅子吼・手取県立自然公園の面積は、関係市町全体の公園面積を示す。
「平成19年度版石川県環境白書」（平成20年7月 石川県）

石川県自然環境保全地域の指定状況

地域名	指定年月日	面積 (ha)		主要保護対象
		特別地区	普通地区	
石川県菊水 自然環境保全地域	昭和51年10月8日	—	6.0	低山地に残されたブナ 自然林
石川県犀川源流 自然環境保全地域	昭和53年3月31日	811.5	—	ブナ林、ダケカンバ林 と豊かな動物相

「平成19年度版石川県環境白書」（平成20年7月 石川県）

金沢市自然環境保全区域の指定状況

区域名	指定年月日	面積 (ha)	概要
金沢市平栗 自然環境保全区域	平成6年3月25日	67	コナラの雑木林、スギ林、竹林、水田及びその跡地で構成されている。カタクリ、ヒメカンアオイ、スミレ類、オウレンなどの植物や、ギフチョウ、アカハライモリ、ニホンカモシカなどの動物が生息している。
金沢市国見山 自然環境保全区域	平成8年3月1日	10	ユキツバキ、オオバクロモジ、ホクリクネコノメ、ヤマモミジなど日本海側に特徴的な植物が多く自生している。

「かなざわの環境平成20年版」（平成21年2月 金沢市）
「金沢市平栗地区ギフチョウ生息調査」（平成6年1月 金沢市）
「金沢市国見山地区自然環境調査報告書」（平成8年1月 金沢市）

3 金沢市の概況

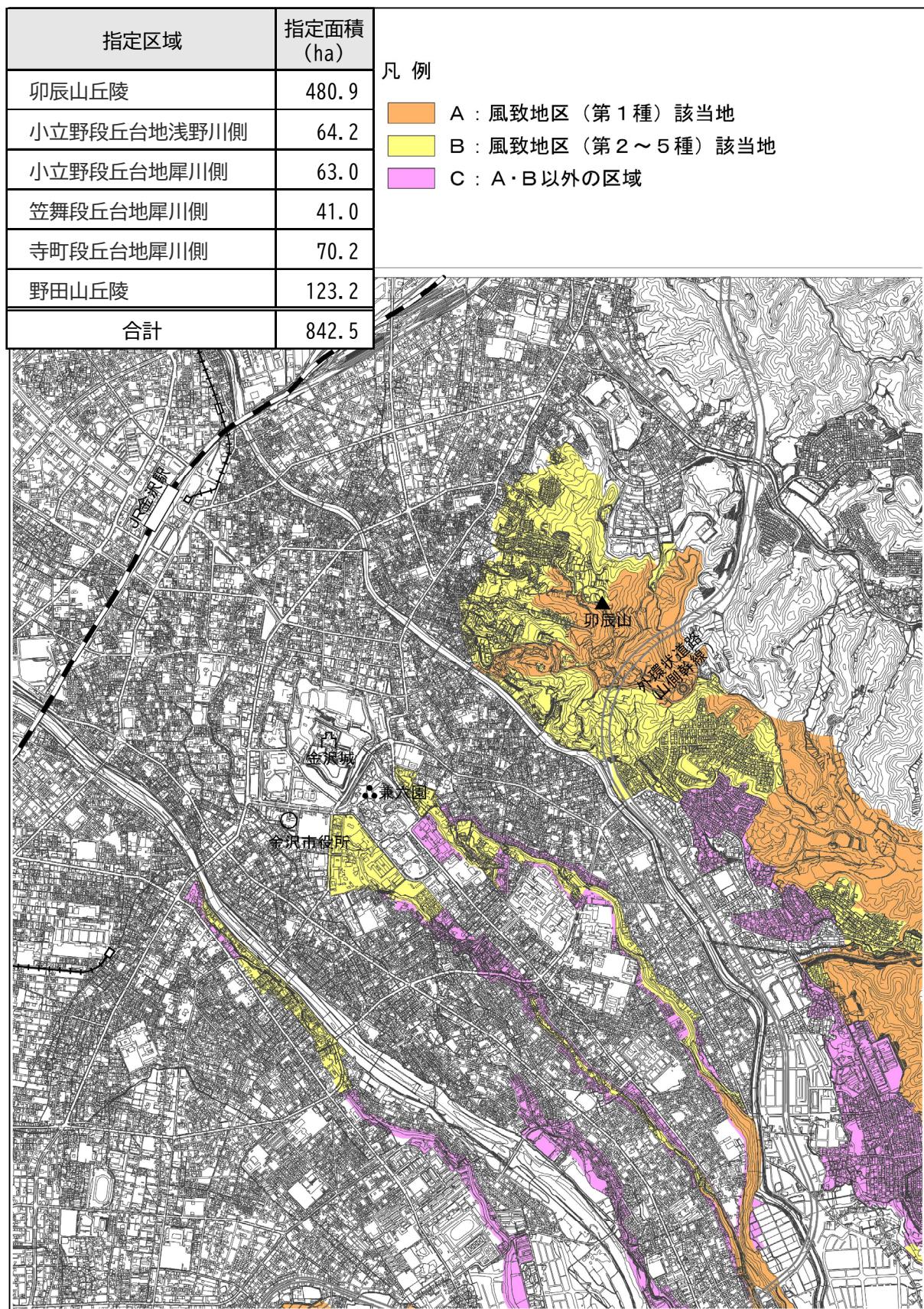
自然公園などの位置



「平成19年度版石川県環境白書」（平成20年7月 石川県）
「平栗いこいの森散策ガイド」（平成18年3月 金沢市）
「国見山散策ガイド」（平成19年3月 金沢市）

3-2. 金沢市斜面緑地保全条例による斜面緑地の保全

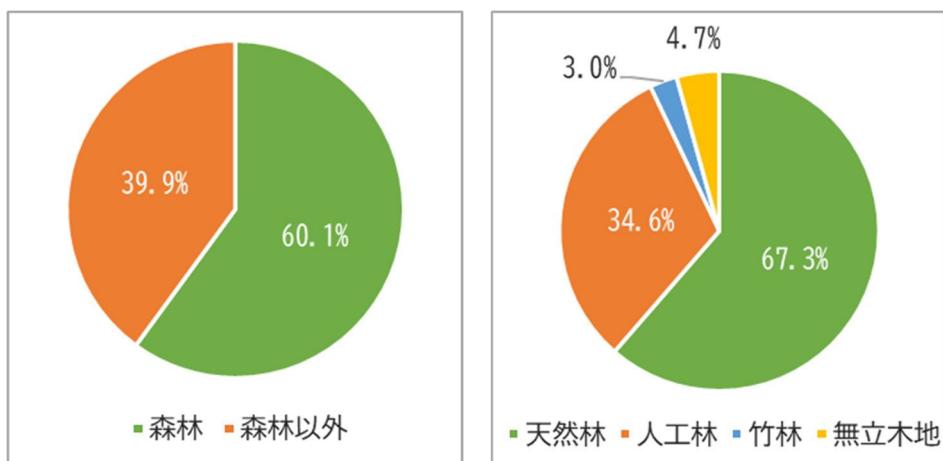
斜面緑地保全区域の指定面および位置



3 金沢市の概況

3-3. 森づくり条例と取り組み

本市の森林面積とその内訳(民有林)



出典：金沢市の森林

①森林を育てる取り組み

<森林整備の担い手育成>

金沢林業大学校

期	研修人数	研究期間
第1期生	18名	平成21年4月～平成23年3月
第2期生	12名	平成23年4月～平成25年3月
第3期生	13名	平成25年4月～平成27年3月
第4期生	14名	平成27年4月～平成29年3月
第5期生	11名	平成29年4月～平成31年3月
第6期生	12名	平成31年4月～令和3年3月
第7期生	14名	令和3年4月～



林業大学校研修生

②森づくりサポートバンクの登録者数の推移 (過去 10 年間)

		H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 元	R2
団体	団体数	35	39	41	47	49	53	55	56	60	71
	人数	4,614	4,937	5,094	5,702	5,787	5,834	5,908	5,913	6,340	6,594
個人		39	42	47	47	46	47	48	48	50	53
総人数		4,653	4,979	5,141	5,749	5,833	5,881	5,956	5,961	6,390	6,647

③森林に親しむ取り組み

<森林に親しむ施設>

市の森林に親しむ施設

施設・場所	内容
平栗いこいの森	里山の雪が消える4月上旬、平栗地区はカタクリやスミレの花が咲き、ギフチョウが舞う1年でもっとも美しい季節を迎えます。夏にはコナラを中心とした雑木林が遊歩道に美しい緑のトンネルをかけてくれ、葉が落ちるドングリ拾いの秋には、バードウォッキングに絶好のフィールドを提供してくれます。また、一角にはほのぼのとした里山風景が望める木道も整備されており、ゆっくりと散策が楽しめます。
直江谷健康の森	直江谷健康の森は標高約200mの里山に広がり、コナラやアベマキを中心とした森には野鳥や小動物、昆虫が住み、カモシカも見られます。見晴台付近からは直江谷地域が一望でき、すばらしい田園風景が広がる様は市内でも有数の場所です。医王の峰々の美しい姿も手に取るように見渡せます。
医王の里	金沢城、兼六園などの金沢中心部から車でわずか30分と近い場所ながら、雄大な自然が待っています。オートキャンプ場、バンガロー村、林間サイト、林間広場の4つのエリアは、それぞれが森に囲まれたスマート・ヴィレッジ。目的や人数に合わせて利用できます。日常とはなれて思いきりアウトドアライフを満喫してください。
海岸の林	粟崎から、金石、大野、専光寺、安原とつづく海岸林（保安林）は緑豊かな環境を形成しています。地域の人々はもとより、多くの市民のみなさんが自然とふれあい、やすらぎ、健康増進の場として気楽に利用できるよう、遊歩道、ゴルフ広場、多目的広場、東屋などが整備されています。
四十万みはらし台	金沢市では、市内でも眺望の良い場所を金沢見晴らし台として整備しています。四十万みはらし台は、その内の1つであり、特に子供たちに対して地元に愛着を持ってもらえるよう、ふるさと教育の一環として整備したものです。遊歩道には、木チップを敷きならしてあり、階段や柵・ベンチには、金沢市産杉間伐材を使用しています。
高尾城址見晴らし台	この見晴らし台がある場所は、通称「ジョウヤマ」と呼ばれており、富樫氏が城を築いた高尾城跡の一部です。頂上の見晴らし台では、金沢平野を一望でき、遠くは日本海まで見渡すことができます。遊歩道には、整備する際に伐採した竹を破碎して作った、チップを敷きならしてあり、階段や柵・ベンチには、金沢市産杉間伐材を使用しています。

4. その他

4-1. 生物多様性ネットワーク登録団体

団体名一覧

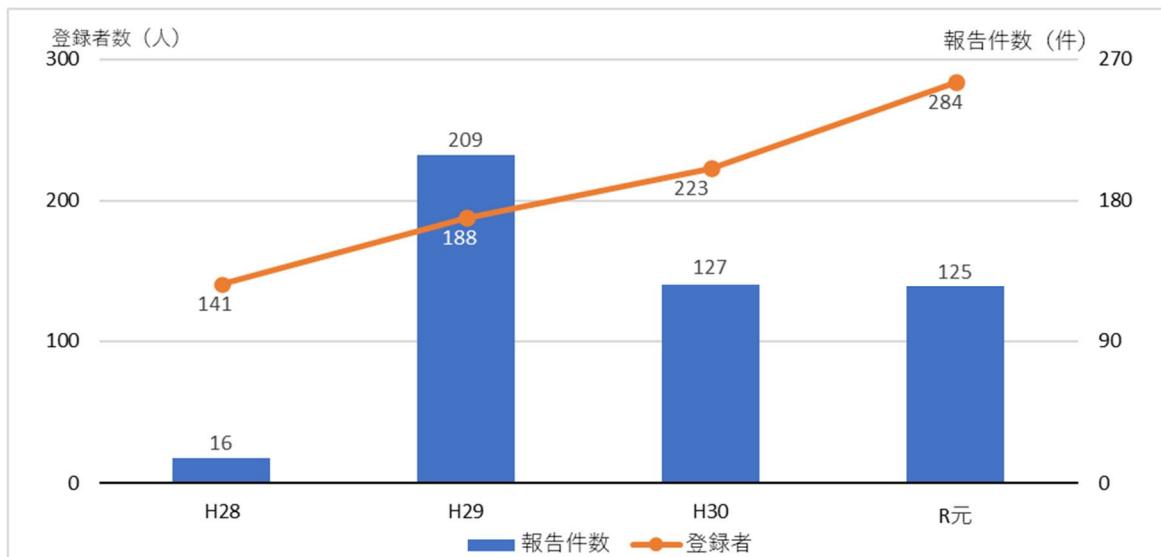
番号	団体名称	代表者氏名	活動紹介
1	石川県自然史センター	高木 政喜	石川県下の自然史系団体の連携・協力の推進と、自然史系博物館・類似施設の整備充実を図っている。
2	角間里山みらい	三橋 俊一	里山の再生を目的に里山保全や人材育成、啓発活動を実施している。
3	河北潟湖沼研究所	高橋 久	地域に根ざした研究機関として河北潟の生物多様性を守り地域振興につなげている。
4	カーボンオフセット推進機構	澤田 猛	風洞発電の普及と太陽熱利用システム事業によるCO2削減を目指している。アスベスト環境問題に関する啓蒙事業、アスベストの調査、除去指導を実施している。
5	くくのち	木谷 博一	過疎・高齢化の問題を抱える中山間地において、地域資源を活用したプロジェクトを実施している。
6	子育て支援さくらっこ	布施 安子	どむろキッズの森リユース市（成長と共に不要になった育児用品を回収し市民の方へ提供）を実施している。
7	犀川桜千本の会	土田 征一郎	犀川河川下流域に居住する人々及び金沢市民に対して、桜の植樹などによる美しい河川景観をつくる事業を行っている。
8	39アース	永井 祐城	放置竹林間伐材の活用として竹灯籠まつりを実施し、里山保全においては中山間地の活性化を図り、環境教育では新保キッズクラブの里山あそびを実施している。
9	森林環境保全・里山物語	出口 勝男	「平町千本桜の里」づくり事業を実施している。2001年より竹林伐採活動を手掛け、里山保全につとめている。伐採跡地に新名所づくりを検討している。桜の名勝を取り組み、現在1386本の植樹完了している。「ほたる」の増殖復活事業に取り組んでいる。
10	世界の砂漠を緑で包む会	大澤 俊夫	内モンゴルゴビ砂漠、エチオピアで砂漠緑化、環境教育、国際交流を行い、県森林公園の一部の整備活動を実施している。
11	ネイチャープロジェクト白山	南 修	自然環境保全活動と自然体験型環境教育プログラムを実施している。
12	石川県自然解説員研究会	奥名 正啓	夏は白山室堂と南竜にて、春秋は県内各地で自然観察会を行い、自然のすばらしさや貴重さなどを伝えている。
13	石川県シェアリングネイチャー協会	宗田 典大	ネイチャーゲームなど、自然体験活動を通して自然のすばらしさに気づく活動をしている。
14	石川フォレストソポーター会	佐々木 修二	間伐、植栽等による里山保全活動を行っている。
15	NPOエコラボ	中村 早苗	生態系保全型農業の体験や地域資源を活用した環境学習を実施している。
16	女川に菜の花油の灯をともす会	宇都宮 千佳	浅野川の生態系を守るため、川清掃、水質調査、女川祭、勉強会などを行っている。
17	金沢植物同好会	(代行) 中野 真理子	植物観察会を通して、自然環境保全の大切さを学ぶことを目標としている。会誌を作成し観察会の記録を参加者へ報告している。
18	金沢みどりの調査会	古池 博	市民と専門家の協同で市民団体として自主的に運営し、金沢城公園の植物調査、植物季節調査、石川県立自然史資料館のボランティア活動などを行っている。
19	金沢ロータークラブ	山村 あかり	金沢市およびその近辺の清掃活動を月1回のペースで実施している。
20	元氣サロン	上村 彰	生物多様性を維持するライフスタイルの基本的食生活を学んでいる。
21	日本野鳥の会 石川	中村 正男	石川県各地で探鳥会を行うほか、鳥類調査、保護および環境保全に関わる活動をしている。
22	総合支援ボランティア団体GRANDE	鈴木 成昌	海岸の清掃活動を定期的に行っており、金沢市が主催している街の美化活動には、積極的に参加している。
23	森の都愛鳥会	村上 秀明	探鳥会を通じ親睦を図ると同時に、里山や湖沼・河川等の身近な自然環境の保護活動をしている。
24	石川ホタルの会	水野 正秋	ホタルの生息環境の保全活動を通して、多様な生き物のすむ環境づくりを行っている。
25	金沢ホタルの会	水野 正秋	ホタルを通して、環境保全の大切さを啓蒙している。
26	大浦ホタル飛ばそう会	豊島 国弘	金沢北部の水郷地区で、ハイケホタルの放流と地区的自然を楽しめるように、子供達との活動をしている。
27	雀谷川を美しくする会	額谷 仁	雀谷川に生息するホタルの環境保全のため、河川を清掃している（年2回ほか随時）ほか、青少年に河川愛護の啓蒙活動を推進している。
28	大学門前町ホタルの会	中野 幸蔵	小学校でのホタル学習の開催やホタル調査、ホタル観賞会、杜の里小学校3年生によるホタルの幼虫飼育と観察、せせらぎ用水へのホタルの幼虫放流事業などを実施している。
29	長土塀下組町会ホタルグループ	松田 長昭	大野庄用水の清掃及びホタルの観察を行っている。
30	日本ササユリ会	中西 勝之	球根植栽、遊歩道整備等ササユリの里づくり活動や研修会、講演会、会報の発行を行っている。
31	白鳥路ホタル友の会	野澤 勇	白鳥路せせらぎでのホタル保全活動を実施している。

(令和4年3月1日時点)

4-2. 希少種等自然環境保全に積極的に取り組む地域数

番号	地域名	概要	備考
1	平栗	金沢市自然環境保全区域を指定し、貴重な自然を保全。	金沢市自然環境保全区域
2	国見山		
3	戸室別所地区	多様な動植物生息地になっている当該区域の保全。当該地区周辺の清掃活動。	
4	額谷洞窟群	希少な種を含むコウモリ類の生息・繁殖場の保全。生息地周辺の清掃活動。	
5	上辰巳町ビオトープ	上辰巳ビオトープの整備・生態調査、小学校への環境学習。	地域と協働で希少生物の保全など、環境保全活動に積極的に取り組む地区
6	東原町	ミズバショウの保全活動、生育地周辺の自然環境整備、地域への環境学習。	
7	玉泉湖		
8	大浦町	ホタルの保全活動、生息地周辺の自然環境整備、学校等への環境学習。	
9	大学門前町		

4-3. 市民ウォッチャーの登録者数、報告件数の推移（過去5年間）



4 各種アンケート結果

1. 市民アンケート

【概要】

対象者・団体：「金沢市 e モニター」に登録いただいている市民より、無作為抽出

回答率：88.4% (221名/250名) 実施期間：令和3年7月16日～令和3年7月30日

目的：金沢市の自然や生物多様性に対する思いや考え方などを調査し、本計画の策定や今後の本市における生物多様性の保全推進に活用するための基礎資料とします。

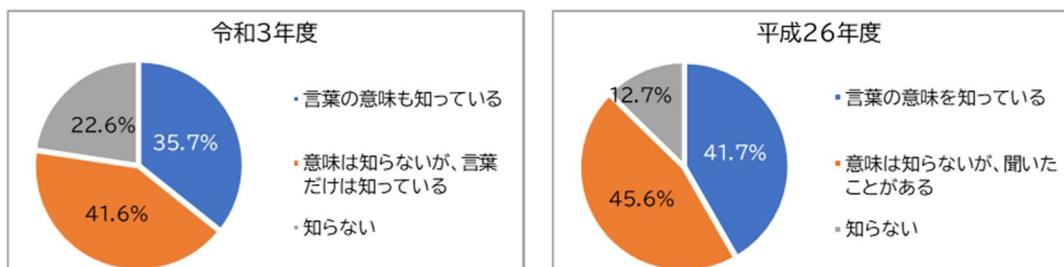
【まとめ】

令和3年度と平成26年度の市民アンケートの結果を比較したところ、「生物多様性の認知度」、「市内の生きものや自然に対する認識」はあまり変化が見られませんでしたが、「自然環境の変化」に対しては変化を感じている人の割合が増加しています。また、その内容は、「宅地化や商業・観光目的の開発により悪化した」や「外来生物の侵入により動植物の種類の変化や減少」などの意見が多く挙げられています。

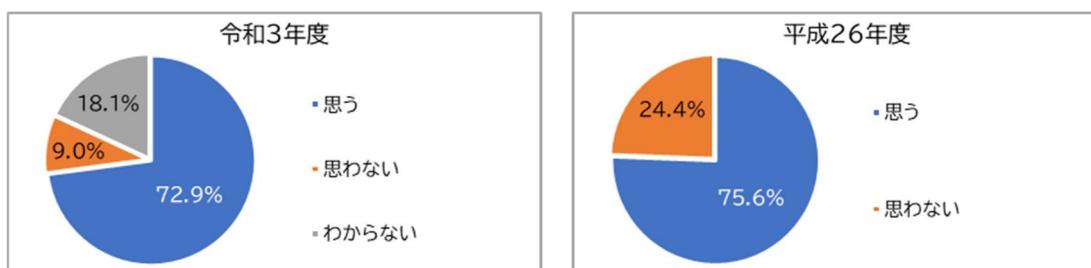
【結果（平成26年度との比較の一部）】

*アンケートの構成比率(%)は小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならない場合があります。

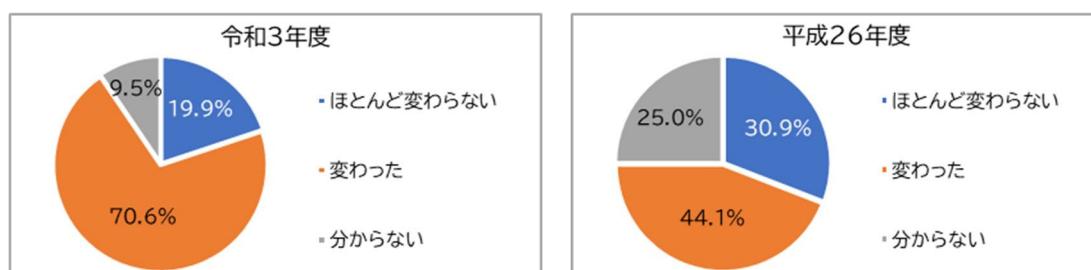
●「生物多様性」という言葉を知っていますか



●金沢市は、生きものや自然が残るまちだと思いますか



●あなたの周りの生物の多い自然環境は10年前と比較して変わりましたか

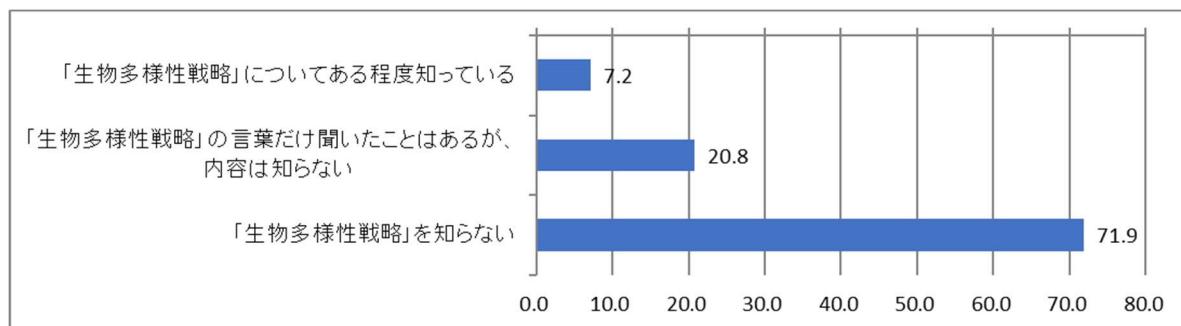


4 各種アンケート結果

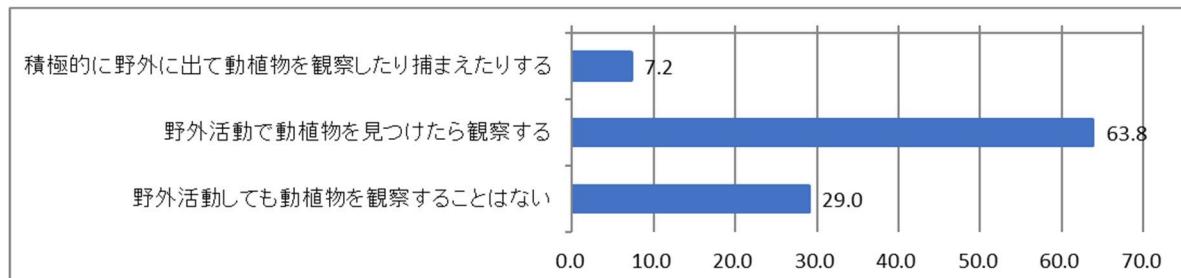
【結果（令和3年度の一部）】

*アンケートの構成比率(%)は小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならない場合があります。

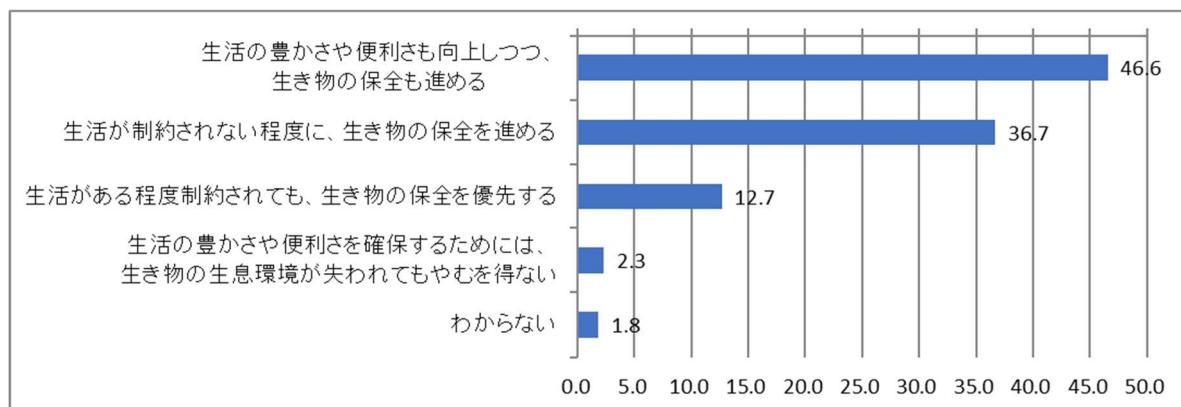
●金沢市では現在「生物多様性戦略」と称する施策を展開しているのですが、ご存じですか



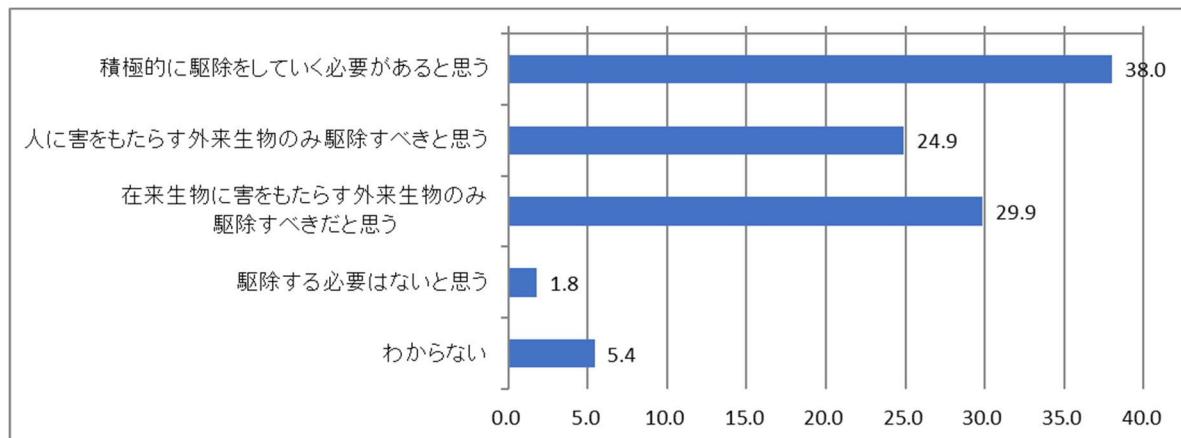
●あなたは野外で動物や植物に親しむことがありますか



●生物多様性保全の取組みと、わたしたちの生活について、どうお考えになりますか



●外来生物の駆除の必要性について、どう思いますか



2. 市民団体アンケート

【概要】

対象者・団体：生物多様性ネットワーク登録団体

回答率：74.2% (23 団体/31 団体) 実施期間：令和3年12月17日～令和4年1月17日

目的：金沢市の自然や生物多様性に対する思いや考え方などを調査し、本計画の策定や今後の本市における生物多様性の保全推進に活用するための基礎資料とします。

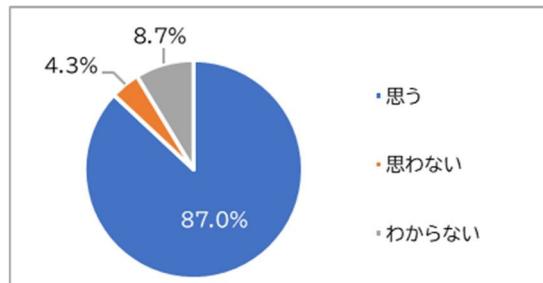
【まとめ】

市民団体の結果においても、市民アンケートの結果と同様に「本市には生きものや自然が残るまち」だと感じられる回答が多く、自然環境は10年前と比べ変わったと感じる団体が約8割を超えています。その理由として、「里山の荒廃や動植物の変化や減少」が挙げられています。

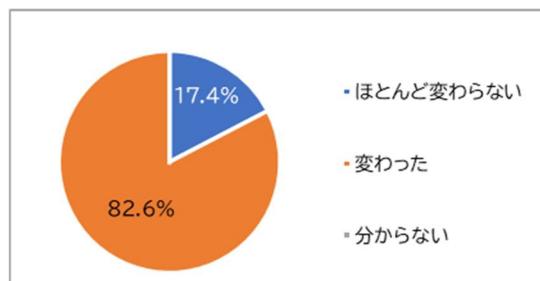
生物多様性の保全に関する取組みの課題としては、主に「人手不足と資金源の確保」などが挙げられています。

【結果（令和3年度の一部）】

●金沢市は生きものや自然が残るまちだと思いますか。



●金沢市の自然環境は10年前と比較してどう変化したと感じますか。



変化したと感じた理由（回答上位3つ）

- ・人と自然の関わりの希薄化による里山の荒廃
- ・公園や河川敷の緑化整備・消失に伴う、自然環境・動植物の減少
- ・外来生物の侵入により動植物の種類の変化や減少

●貴団体が生物多様性の保全に関する取組みを行うにあたって課題となるものは何ですか。

(回答上位3つ)

- ・スタッフの減少・固定化・高齢化
- ・イベント参加者の確保
- ・資金や物品の確保

5 その他

1. 計画策定の経過

1-1. 策定経過

年月	会議名等	内容
令和3年5月28日	第1回 策定委員会	・金沢版生物多様性戦略の概要説明 ・計画策定に係る基本的な考え方
令和3年7月16日 ～ 令和3年7月30日	市民アンケート	・生物多様性に係るアンケート調査
令和3年11月24日	経済環境常任委員会	・計画（骨子案）について
令和3年11月29日	第2回 策定委員会	・計画（骨子案）について
令和3年12月17日 ～ 令和4年1月17日	パブリックコメント 市民団体アンケート	・パブリックコメントの実施 ・市民団体への生物多様性に係るアンケート調査
令和4年3月8日	第3回 策定委員会 経済環境常任委員会	・計画（案）について
令和4年3月31日	計画策定	

1-2. 策定委員会委員名簿

役割	氏名	役職名等
会長	永坂 正夫	金沢星稜大学人間科学部教授
委員	大河原 恭祐	金沢大学理工研究域生命理工学系准教授
〃	河崎 仁志	NPO法人角間里山みらい専務理事
〃	白川 郁栄	日本野鳥の会石川副代表
〃	高橋 久	NPO法人河北潟湖沼研究所理事長
〃	富沢 章	石川むしの会会长
〃	中野 真理子	石川県立自然史資料館副館長
〃	永井 三岐子	国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 事務局長
〃	柳井 清治	石川県立大学生物資源環境学部教授

※敬称略、委員は五十音順

2. イラスト作成者、写真出典一覧

2-1. イラスト作成者

該当ページ	氏名	所属
P28 後 (A3 資料)	鈴木 志麻	金沢美術工芸大学3年

2-2. 写真出典一覧

<本編>

該当ページ	品名	提供者
P.10	伝統工芸品等	加賀友禅組合
P.14	加賀友禅染色	加賀友禅組合
P.21	ゴイサギ	アルスコンサルタンツ(株)
	トノサマガエル	アルスコンサルタンツ(株)
	イソコモリグモ	富沢章氏
	ハマヒルガオ	アルスコンサルタンツ(株)
	カルガモ	アルスコンサルタンツ(株)
P.25	ツキノワグマ	大井徹氏(石川県立大学)
P.36	鷹匠	株式会社鷹丸
P.44	金沢ボランティア大学校	公益社団法人 金沢ボランティア大学校
P.51	生物多様性ワークショップ	UNU-IAS OUIK
P.61	生き物調査	UNU-IAS OUIK

<資料編>

該当ページ	品名	提供者
資2-1	シロマダラ	坂野謙志氏
資2-4	ハッタミミズ	川原奈苗氏
資2-5	イソコモリグモ	富沢章氏
資2-6	アライグマ	環境省
	ウシガエル	環境省
	セアカゴケグモ	環境省
資2-7	オオクチバス	石川県内水面水産センター
	コクチバス	石川県内水面水産センター
	ブルーギル	環境省
資2-8	アレチウリ	環境省
	オオハンゴウソウ	環境省
資2-9	ミシシッピアカミミガメ	環境省